

高等部 作業学習（縫製班） 授業案

日 時：令和2年10月30日（金）

10:00～11:45

場 所：被服室

授業者：T1 澤根博之 T2 佐藤亜希子

T3 鈴木弘子 T4 佐藤 麻衣

1 単元名 「よねようバザーを成功させよう」 ～ミニバックを40個作って売ろう～ ～小物をたくさん作って売ろう～

2 期待する姿

- ・よねようバザーに向けて製品づくりに一人一人が精一杯取り組む姿。
- ・仲間と協力しながら販売の準備や販売活動に取り組む姿。

3 単元計画について

（1）生徒および単元のテーマについて

- ・縫製班には1年生1名、2年生2名、3年生7名の計10名が在籍している。教員5名を含め、一人一人が製品作りに精一杯取り組めるよう、工程を仲間と分担して製作に取り組んでいる。ガイドなどの補助具があったり、これまで繰り返し取り組んできたことで、生徒全員がミシンを操作することができる。今年度はこれまで、マスクやエコバック、米沢織キーホルダーなどの製品作りに取り組んできた。
- ・1学期は、市役所や道の駅で例年開催している「米養高等部バザー夏」が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、「小物を作ってみよう」や「バッグを作ってみよう」の単元を設定し、マスクや米織製品、トートバッグを製作して、職員向けの無人販売会や職員から注文を取って販売する活動に取り組んだ。前単元「注文を取って販売しよう」では、エコバッググループと米織グループに分かれて活動を行った。エコバッググループは、レジ袋が有料化されたことを受け、新製品であるエコバッグを製作し、チラシ等を配って保護者や職員に販売した。米織グループでは、米沢市健康福祉部健康課から献血の景品として使用する目的で、「米沢織キーホルダー」の注文を受け、製作、納品する活動に取り組んできた。
- ・本単元は、「よねようバザーを成功させよう」である。「よねようバザー」は11月14日（土）に開催される「よねようまつり」において高等部が体育館を会場に行うバザーである。「よねようまつり」は本校最大のイベントであり、毎年たくさんのお客様に来校していただき製品を買っていただいている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、当日は保

護者のみ来校いただいで開催となるが、バザーで販売することに期待感を持ちながら、製作や販売の準備などに意欲的に取り組んだり、また、取り組む中で、働くやりがいや喜びを高めたりしてほしいと考え本単元を設定した。

- ・縫製班では、今回が今年度初めての対面式での販売である。直接販売することで、自分達が心を込めて作った製品が売れる喜びや達成感をこれまで以上に味わってほしいと考える。また、前単元では2つのグループに分かれて活動を行っていたが、本単元では、「よねようバザー」の成功に向けて縫製班一丸となって取り組み、より多くの製品を買っていただけるように、一人一人が自分の製作工程や販売の準備、バザーの運営の役割などに責任を持ち、精一杯取り組む姿を期待したい。

〈製品の製作について〉

- ・本単元では「ミニバッグ」と、小物製品として「コースター」、「ランチョンマット」、「くるみボタン」、「ガーランド」、「アクリルたわし」を製作する。
- ・ミニバッグは、これまでのトートバッグMサイズをさらに小さくしたバッグである。コロナ禍で持参する人が増えた弁当の持ち運びや、財布やスマートフォンのみをバッグに入れたちよっとした買い物などでの使用を想定している。1学期に製作したトートバッグの工程を生かすことができるため、見通しを持って製作できると考える。一般的な市販の布だけではなく、米沢織の織地や岡山デニム地なども取り入れることで、より高級感のあるバッグを目指したい。
- ・ミニバックは、生徒と教員が工程を分担して製作する。一人一人が責任感を持って製作に取り組めるように、1日の製作数や単元全体での製作目標を設定する。
- ・小物製品は、担当を決めて製作する。得意なことを生かして意欲的に取り組めるように、生徒の希望に応じたり、生徒が力を発揮できるものを担当したりできるように分担する。また、ミニバッグと同様に、小物製品にも米沢織を取り入れる。これまで米沢織について学習したり、実際に織地を使用した製品作りに取り組んだりしてきたこと、単元の初めに実際に織地を買いに行ったりすることで、米沢織に親しみを持って取り組めると考える。

〈販売について〉

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の一環で、よねようまつり当日は、例年のように他学部の発表を見たり、製品を買ったりすることができないため、11月9日から13日にかけて「よねようまつりウィーク」が設定されている。「よねようまつりウィーク」では、他学部の児童生徒の発表を見たり、製品を買いに行ったり、また、他学部向けに製品を販売したりできる期間である。期間中は毎日、会議室を会場にプチ販売会を行う。
- ・「よねようまつりウィーク」では、他の作業班の友達や他学部の児童生徒にも製品を買ってもらえるように、価格の安い小物製品を中心に販売する。よねようバザー当日は、より多くの売り上げにつながるように、単元期間で製作した製品だけではなく、前単元までに製作していたトートバッグやキーホルダーなどの販売も行う。
- ・販売活動にも自信を持って意欲的に取り組めるように、事前に販売のシミュレーションをしたり生徒が力を発揮できる役割を分担したりする。

〈窯業班製品とのセット販売について〉

- ・バザーでは、ミニバッグや小物製品の単独販売だけでなく、「米沢織コースター」や「米沢織ランチョンマット」と、窯業班の「ぐい呑みセット」や「湯飲み」などを組み合わせて限定販売したいと考えた。米沢織を使ったコースターやランチョンマットは高級感があり、「和」のイメージがあることから、「ぐい呑みセット」や「湯飲み」にも合うと考える。また、市販の布を使ったコースターやランチョンマットと窯業班の「マグカップ」をセットにした「マグカップセット」も販売する。これらは、よねようバザー限定としてセット販売し、特別感を出すことにより、多くのお客様に買っていただけ、両班の売り上げにもつながるものと考ええる。縫製班の生徒にとっては、作った製品がどのように使われるか、具体的にイメージを持って製作することで、製作や販売への意欲が高まるのではないかと考える。さらに、これまで取り組んだことのない作業班を超えたコラボレーションに取り組むことで、今後、本校の製品の可能性を発見、発信することや、コロナ禍でも、より多くの製品を販売するための新しい販売方法などを考えるきっかけにもなると考える。
- ・バザー当日、セット販売の製品がより際立つように、場の配置や効果的な製品の置き方など、生徒同士が意見交換する場面を設定し、並べ方などにも工夫しながら協力して取り組めるようにする。また、製品の魅力などをお客様に伝えることで、より多くの販売につながるように、製品の魅力について考えたり、お客様に伝える練習をしたりする。

(2) 活動内容および日程計画

月 日	2・3・4校時の内容	6校時	活動内容
10月27日(火)	・導入 話し合い／目標決め 製品の決定	・ 窯業班へ オーダー ・製品決定	・これまでの製品を振り返り、ミニバッグを製作することを決定する。また、どうやって売 るのかを考える。 ・よねようまつりまでの製作活動の見通しにつ いて知らせる。
28日(水)	・製品作り 役割分担決め 校外学習	・小物製作	・ミニバッグの製作数決定 ・製品および小物製作(ランチョンマット、コ ースター、くるみボタン、ガーランド、アク リルたわし)に取り組む。 ・布の購入(代表生徒のみ)
29日(木)		宣伝ビデオ 話し合い	・よねようまつりウィークで使用する宣伝ビデ オを作ることを知り役割分担をする。
30日(金) 本時			
11月2日(月)	・ビデオ撮り		・よねようまつりウィークで発表する宣伝ビデ オを撮影する。
4日(水)			
5日(木)			
6日(金)	話し合い 販売方法の決定		・よねようまつりウィークに使用するチラシ、 ポップづくりに取り組む。
9日(月)	・プチ販売会 製作／販売準備	・チラシ・ポ ップづくり	・ セット販売の準備 を行う。 ・会議室で販売会をする 製作／製品展示
10日(火)			
11日(水)			
12日(木)			
13日(金)			
14日(土)	よねようまつり よねようバザー当日		・販売・製作 体育館で販売、被服室で製作する。
17日(月)	・まとめ 売上数と後片付け お疲れ様会		・目標である製作数が達成できたか確認する。 ・売上数と金額を数える。 お疲れ様会をする。清掃、後片付け

※ は、地域や社会の資源の活用や地域や社会との連携・協働による視点

- ・単元の初めは、毎日の作業に見通しを持ち、縫製班一丸となって取り組めるように、単元全体での製品の完成数の目標を決めたりバザーまでの日程を確認したりする。また、セット販売に向けて、製品に見合う「ぐい呑みセット」や「湯飲み」、「マグカップ」を窯業班にオーダーする。さらに、製品作りへの意欲を高め、販売時、売れた時の達成感につながるように、製品に使用する

布や織地を購入する機会を設定する。

- ・単元の中盤は、販売に向けてバッグや小物の製作活動を中心に行う。
- ・単元の終盤は、「よねようまつりウィーク」でプチ販売会を行う。また、よねようバザー当日の販売への意欲が高まるように、製品をPRするための販売用のポップなどについても考えたり、制作したりする。

4 地域や社会の資源の活用や地域や社会との連携・協働について

- ・買い手をイメージして製作したり、よりお客様に製品の魅力が伝わり売り上げにつながったりするように、窯業班の製品を組み合わせで販売する。セット販売に向けて、窯業班にセット販売する製品をオーダーする。
(買い手のイメージ) (コーポ・コラボ)
- ・製品の一部に米沢織の生地を使ったミニバッグ、コースター、ランチョンマットを製作する。
(地域の資源を活かした製品)
- ・製品の材料を直接買いに行く。また、お店のスタッフから布と織地の組み合わせについてアドバイスをいただいたり、スタッフの方と一緒に組み合わせを考えたりして、製品作りに生かす。
(地域の人材の活用)

※ () は、社会に開かれた授業づくりに向けたアイデアシートとの関連

5 本時の計画

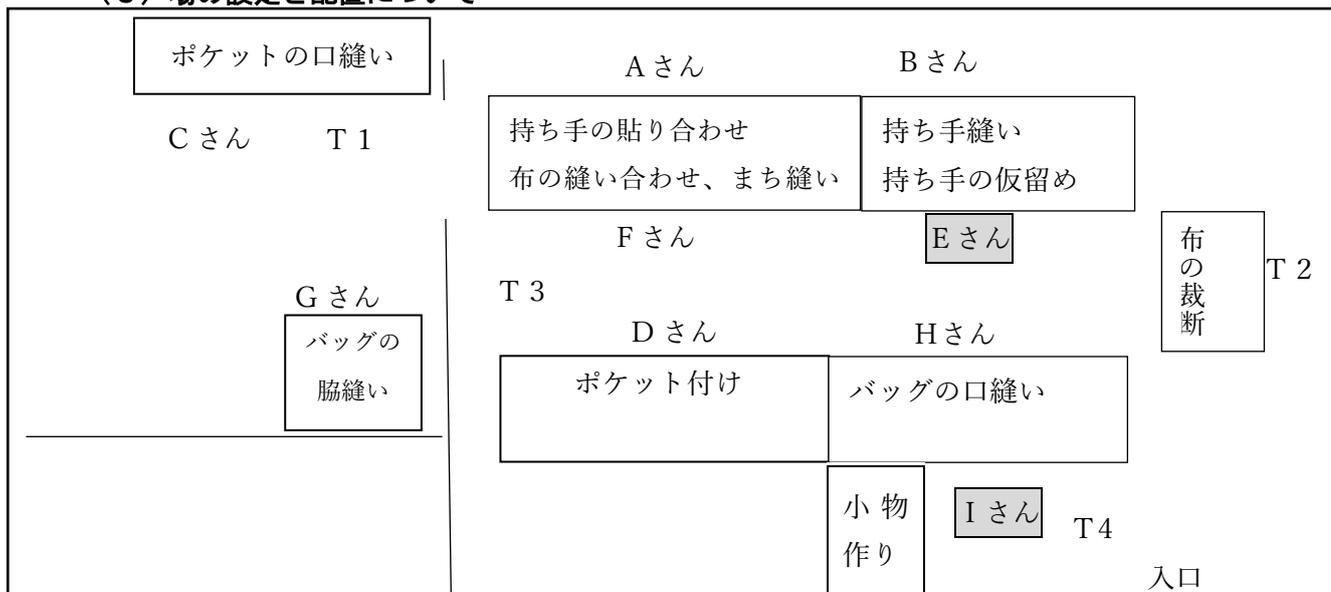
(1) 本時の期待する姿

- ・作業班の仲間と共に、自分の担当する作業に精一杯取り組む姿。

(2) 展開

時配	生徒の活動	教師の動き
5	<ul style="list-style-type: none"> ○作業の準備をする。 ・身支度を整える。 ・めあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、生徒の作業内容や本時のめあてを確認したり、身支度を整える支援をしたりする。
95	<ul style="list-style-type: none"> ○製作する。 ・今日製作する製品の数を確認し作業を開始する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 〈持ち手の貼り合わせ〉 Aさん <ul style="list-style-type: none"> ・持ち手となる布地を2枚、両面テープを使って貼り合わせ、アイロンを掛ける。 〈持ち手縫い〉 Bさん <ul style="list-style-type: none"> ・持ち手の直線縫いを行う。 〈ポケットの口縫い〉 Cさん <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンでポケットの口縫いをする。 〈ポケット付け〉 Dさん <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンでポケットをバッグの生地には縫い付ける。 〈持ち手の仮留め〉 Eさん <ul style="list-style-type: none"> ・持ち手の両端をミシンで表布に仮留めする。 〈布の縫い合わせ〉 〈まち縫い〉 Fさん <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンで2枚の布地を縫い合わせる。 〈バッグの脇縫い〉 Gさん <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンでわき縫いをする。 〈バッグの口縫い〉 Hさん <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンでバッグの口縫いを行う。 〈小物作り〉 Iさん <ul style="list-style-type: none"> ・ガーランド、くるみボタン、アクリルたわしの製作を行う </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・T1はAさん、Fさんの様子を見守りながら、必要に応じて声掛けをし、Cさんのポケットの口縫いの台紙のセットと点検を行う。 ・T2は、Bさん、Hさんの作業の進み具合を確認しながら布の裁断を行う。また、Eさんの持ち手の仮留めの点検も行う。 ・T3は、Dさん、Gさんの作業の進み具合を見ながら生徒と仕上がり点検を行う。 ・T4は、Iさんの作業の進み具合を見ながら次の工程のセットをする。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○エプロンを掛けたり、身の回りを整えたりして各自教室に戻る。 	

(3) 場の設定と配置について



※ は協議対象生徒

- ・現場実習やその事前学習のため、生徒1名（高等部3年）と担当教師1名は本単元の活動には参加しない。

(4) 本時の個別の期待する姿と手立ての工夫

名前		Aさん（2学年）	
単元の期待する姿		テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・持ち手の貼り合わせに取り組む。 ・バッグ作りの工程を理解して、自分の仕事に責任を持って取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・持ち手の貼り合わせが隙間やズレがなくきれいにできる。（知・技） ・仕上がりを意識して取り組む。（思・判・表） ・めあての数や次の工程を理解して、自分の仕事に責任を持って取り組む。（主） 	
本単元に関わる支援内容		作業①②	主な各教科との関連 職1段階（2）AI（ア）㊦㊧ ㊨ 職1段階AI（イ）㊦ 家1段階（2）BE（ア）
分担	本単元のこれまでの様子	本時の期待する姿	手立て
持ち手の貼り合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒にやり方を確認したり、ポイントを伝えたりすることで、自分の工程を理解して取り組むことができる。 ・バッグの持ち手の貼り合わせを担当している。前単元で取り組んでいた製品と工程は同じだが、大きさが変わった為、やりづらさが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8本の持ち手の貼り合わせに取り組む。 ・できたものの仕上がりを教師に報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を覚えることができるようにやり方の手本を示したり、ポイントを伝えたりする。（工程や手順） ・見通しを持って取り組めるように、めあての数8本を確認する。（見通しやめあて） ・できたものを持ってきて報告できるように声掛けしておく。（友達や教師との関わり） ・継続して作業に取り組めるように、仕上がりを一緒に確認して称賛する。（友達や教師との関わり） ・持ち手の貼り合わせがしやすいように、手元が見やすくなる窓際の席で作業に取り組む。（工程や手順）

名 前		Bさん (3学年)		
単元の期待する姿		テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> 出来栄を意識しながら持ち手縫いに取り組む。 お客様に喜んでもらえる製品や販売方法について考え、アイデアを出したり仲間と相談したりして製品製作に生かす。 		<ul style="list-style-type: none"> ミシンの糸調子を合わせながら正確に直線縫いをする。(知・技) 仕上がりのきれいな持ち手はどのようなものか意識する。(思・判・表) お客様のニーズを、相手の立場になって考える。(思・判・表) 製品製作の工程を理解し、責任を持って取り組む。(主) 		
本単元に関わる支援内容		日生① 生単② 作業① 自立①	主な各教科との関連	国語1段階〔知識及び技能〕 ア(ア)(イ)(カ) 職業1段階Aア(イ) イ(ア)㊦㊧㊨ 家庭1段階Bエ(ア)
分 担	本単元のこれまでの様子	本時の期待する姿	手立て	
持ち手縫い	<ul style="list-style-type: none"> 片側にガイドを使うことで、正確に布送りをして直線縫いをすることができるようになった。 糸を替えたときは、必ず試し縫いをして糸調子を教師と確認している。自分で判断することは、まだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> きれいな仕上がりを意識して、バッグ4枚分の持ち手を縫う。 	<ul style="list-style-type: none"> 集中して取り組むことができるように、めあての数の材料を用意する。(見通しやめあて)(教材や用具) 自信を持って直線縫いができるように、ミシンにガイドを取り付ける。(教材や用具) きれいな縫い目を意識することができるように、試し縫いをしたら教師と一緒に確認することを手順に入れる。(工程や手順)(友達や教師との関わり) 	

名 前		Cさん (3学年)		
単元の期待する姿		テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ポケットの口縫い8枚分に集中して取り組む。 次の工程の教師にできたものを届ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分でフットコントローラーを押して、縫い終わりまで縫う。(知・技) 縫い終わりに気が付いて、ボタンを押して糸を切り、台紙を外す。(思・判・表) 自分の工程が終わったら、次の人にできたポケットを届ける。(主) 		
本単元に関わる支援内容		日生④⑥生単①② 作業①自立②	主な各教科との関連	社会1段階ア(ア)㊦ 職業1段階Aア(イ)
分 担	本単元のこれまでの様子	本時の期待する姿	手立て	
ポケットの口縫い	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の「バッグをつくってみよう」単元でポケットの口縫いを担当した。台紙をセットすると、縫い終わりの印まで自分でミシンを操作して縫い、台紙を外すところまでできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ポケットの口縫いに手元を見て8枚取り組む。 できたものを次の工程の教師へ届ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 台紙にポケットを貼って材料を用意し、縫い始めを合わせてセットする。(教材や用具) 縫い終わりに気が付けるように台紙に印を付け、印に近づいたら声掛けをする。(教材や用具) 意欲的に活動に取り組めるように、できたものを一緒に確認して称賛し、次の工程の友達に届ける声掛けをする。(友達や教師との関わり) 	

名 前	Dさん (2学年)		
単元の期待する姿	テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日にバッグ4枚分の8個のポケット付けに集中して取り組む。 ・ 挨拶や受け答え、連絡、報告など相手に聞こえる声量で話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポケットの縫い幅を狭くして真っ直ぐ縫う。(知・技) ・ 挨拶や連絡、報告などの声を相手に聞こえるような声量で話す。(思・判・表) ・ 自分の目標を意識して、責任を持って取り組む。(主) 		
本単元に関わる支援内容	日生① 作業① 自立①	主な各教科との関連	国語1段階ア(ア)(イ) 社会1段階ア(ア) 職業1段階Aア 職業1段階Aイ(ア)
分 担	本単元のこれまでの様子	本時の期待する姿	手立て
ポケット付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前単元でより綺麗にポケットを縫うために、ポケットの縫い幅を狭くして取り組んだが、難しく断念したことがある。本人はより綺麗に仕上げたいという意識があり、縫い目や縫い幅を意識して取り組んでいる。 ・ 挨拶や連絡報告の際に、相手に聞こえず、聞き返されたり、言った事が伝わらなかったりすることがある。聞き返すことで、声量が上がることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縫い幅を狭くして、真っ直ぐな縫い目でポケットを付ける。 ・ 挨拶や受け答え、連絡、報告など相手に聞こえる声量で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ より綺麗に、丁寧にポケットが付けられるように、出来上がりの良い例、悪い例を示しておく。(見通しやめあて)(教材や用具) ・ 狭い幅で真っ直ぐ縫えるように、幅の目安となるテープを貼る。(教材や用具) ・ 相手に聞こえる声量で言葉を発することができるように、聞こえない場合には聞き返す。よく聞こえたときにはさりげなく褒める。(友達や教師との関わり)

名 前		Eさん (3学年) ※協議対象生徒		
単元の期待する姿		テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> 縫い目の歪みがないように気を付けながら、持ち手の仮止めをする。 分からないことや困ったことがあったとき、すぐに報告や相談をする。 お客様に喜んでもらえる製品や販売方法について考え、アイデアを出したり仲間と相談したりして製品製作に生かす。 		<ul style="list-style-type: none"> ガイド線を意識して正確に三重縫いをする。(知・技) 報告や相談を適切な言葉遣いやタイミングで行う(知・技) 歪みのない縫い目はどのようなものか意識する。(思・判・表) お客様のニーズを、相手の立場になって考える。(思・判・表) 製品製作の工程を理解し、責任をもって取り組む。(主) めあての数を意識して集中して取り組む。(主) 		
本単元に関わる支援内容		日生②③ 生単② 作業①②③ 自立②	主な各教科との関連	国語 1 段階 [知識及び技能] ア (ア) (イ) (カ) 職業 1 段階 A ア (イ) イ (ア) ㊦㊧㊨ 家庭 1 段階 B エ (ア) (イ)
分 担	本単元のこれまでの様子	本時の期待する姿	手立て	
持ち手の仮止め	<ul style="list-style-type: none"> ミシンのボタン操作が気になり目線が手元から離れて縫い目が歪んでしまうことがあったが、フットコントローラーを使うことで印を意識して縫うことができたようになった。 目標数があることで意欲的に取り組むことができる。 布のほつれがあるときは、糸を引きすぎずにはさみを使って整えるようにしている。 分からないことがあってもそのまま作業を進めてしまうことがあり、雑な仕上がりになってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 歪みのない仕上がりを意識してバッグ 4 枚分の持ち手の仮留めをする。 布のほつれが気になるときは、はさみで切って整える。 分からないことや困ったことがあったときは、すぐに伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組むことができるように、めあての数の材料を用意する。(見通しやめあて)(教材や用具) ボタン操作で目線が布から外れることがないように、フットコントローラーを用意する。(教材や用具) 縫う位置がわかるように、印を付ける。(工程や手順) どこを切っていいかわからないときは、一緒に確認する。(工程や手順)(友達や教師との関わり) 手順やポイントがわかるように、事前に説明したり手本を示したりする。(工程や手順)(友達や教師との関わり) 困ったときにすぐに伝えることができるように、作業を始める前に分からないことや困ったことがあったら聞くことを確認する。(見通しやめあて)(友達や教師との関わり) 	

名 前		Fさん (3学年)	
単元の期待する姿		テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・バッグ4枚分の布の縫い合わせに責任を持って取り組む。 ・布の貼り合わせや線引きなどの作業準備を自分でする。 ・バッグ4枚分のまち縫いに責任を持って取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・布の縫い合わせや布の貼り合わせ、線引きなどが正しくできる。(知・技) ・自分で印を付けて、返し縫いが必要な部分や縫わない部分を自分で判断する。(思・判・表) ・バックの作り方や自分の分担を理解して、自分の仕事に責任を持って取り組む。(主) 	
本単元に関わる支援内容		作業①	主な各教科との関連 社会1段階ア(ア)㊦ 職業1段階Aア(ア)(イ)(ウ) 職業1段階Aイ(ア)㊦㊧
分 担	本単元のこれまでの様子	本時の期待する姿	手立て
布の縫い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・バッグの表布と裏布の縫い合わせに取り組んでいる。線を引いておくと、返し縫など忘れずに縫うことができた。 ・同じ仕事を続けると疲れが見られ、休憩が多くなった。ミシンだけではなく複数の工程を組み合わせ取組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バッグ4枚分の布の縫い合わせやまち縫い、布の張り合わせや線引きに責任を持って丁寧に取り組む。 ・気持ちを落ち着かせて、自信を持って作業に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の手順を覚えて取り組むことができるように、やり方を一緒に確認したり、ポイントを伝えたりする。 (工程や手順)(見通しやめあて) ・自信を持って作業に取り組めるように、うまくできたところは称賛する。 (友達や教師との関わり) ・責任が高まるように、縫い終わったものを次の工程の人に渡すことを手順に入れる。 (友達や教師との関わり)

名 前		Gさん (3学年)		
単元の期待する姿		テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> バック4枚分の脇縫いに集中して取り組む。 自分の担当の工程に責任を持って最後まで取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> 縫うべき線を見ながら、真っ直ぐ脇縫いをしたり縫い目を開いてアイロンをかけたりする。(知・技) 作業の工程を理解し、自分の担当箇所責任を持って取り組む。(主) 		
本単元に関わる支援内容		生単① 作業① 自立①	主な各教科との関連	国語1段階ア(ア)(イ) 社会1段階ア(ア) 職業1段階Aア 職業1段階Aイ(ア)
分 担	本単元のこれまでの様子	本時の期待する姿	手立て	
バックの脇縫い	<ul style="list-style-type: none"> この単元ではバック4枚分の脇縫いに取り組んでいる。気持ちの安定のため自分の作業が終わると時間まで休憩したり、本人が作りたいものを作成したりして過ごしている。 作業に気持ちが向かず、被服室に来られないことが多いが、一旦来ると、自分の担当箇所が終わるまで縫い続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 責任を持ってバック4枚分の脇縫いをする。 安定して脇縫いやアイロンがけに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定した気持ちで意欲的に作業に取り組めるように、朝の段階で声を掛け、作業量を調整する。(見通しやめあて)(教材や用具)(友達や教師との関わり) 縫う位置が分かるように、縫う箇所に線を引く。(工程や手順) 気持ちが安定するように、自分の担当箇所が終わったら、休憩するか、作りたい小物を作るか選択できるようにする。(見通しやめあて)(教材や用具) 責任感が高まるように、縫い終わったものを次の工程の人に渡すことを手順に入れ、渡す友達を確認しておく。(友達や教師との関わり) 	

名 前		Hさん (3学年)	
単元の期待する姿		テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> 出来栄を意識しながら、バッグの口縫いに取り組む。 分からないことや困ったことがあったとき、迷わず相談や報告をする。 		<ul style="list-style-type: none"> 正確に布送りをしてバッグの口縫いをする。(知・技) 報告や相談を適切なタイミングでできる。(知・技) 仕上がりのきれいな口縫いはどのようなものか意識できる。(思・判・表) 自分の目標を意識して、責任を持って取り組む。(主) 	
本単元に関わる支援内容		日生① 生単① 作業① 自立①②	主な各教科との関連 国語 1 段階〔知識及び技能〕 ア (ア) (カ) 職業 1 段階Aア (イ) (ウ) イ (ア) ㊦㊧ 家庭 2 段階Bエ (ア)
分 担	本単元のこれまでの様子	本時の期待する姿	手立て
バ ツ グ の 口 縫 い	<ul style="list-style-type: none"> この単元から、バッグの口縫いを担当している。 ミシンを使った作業が好きで、意欲的に取り組んでいる。難しいと思われることでも、あきらめないで取り組む姿が見られる。 ミシンのトラブルや困ったことがあったとき、言葉で伝えることが難しく時間を過ごしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> きれいな仕上がりを意識して、バッグ 4 枚分の口縫いをする。 困ったことがあったら、迷わず伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> やるべきことが分かるように、材料を用意する。(見通しやめあて)(教材や用具) 糸替えがスムーズにできるように、色番号を書いたシールをバッグに貼っておく。(工程や手順) 布端を合わせる位置がわかるように、ミシンに印を付けておく。(教材や用具) 困ったときに自分から伝えることができるように、伝えやすい方法を、作業を始める前に本人と相談する。(友達や教師との関わり)

名 前		I さん (1 学年) ※協議対象生徒		
単元の期待する姿		テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・ガーランドやくるみボタン、アクリルたわしなどの小物作りに取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの操作や編み機の使い方を理解して自分で取り組む。(知・技) ・布を貼り付けた台紙をミシンにセットし、縫い終わりに気付いてミシンを止める。(思・判・表) ・ガーランドやくるみボタン、アクリルたわしなどの作業に見通しを持って取り組む。(主) 		
本単元に関わる支援内容		作業① 自立①	主な各教科との関連	社会 1 段階 (2) (ア) 職業 1 段階 A ア (イ) 自立 2 (1) (2) 3 (1) (4)
分担	本単元のこれまでの様子	本時の期待する姿	手立て	
小物作り	<ul style="list-style-type: none"> ・1 学期の「バッグを作ってみよう」の単元では、ミシンの操作を覚え、毎時間トートバッグ 2 枚分の脇縫いに取り組んだ。 ・一つの作業が終わるごとに休憩を 20～30 分ほど挟んでいる。教師の誘い掛けで被服室に移動して次の作業に取り組んでいる。 ・作業を早く終わらせたい気持ちがあるが、最初に今日取り組む内容を確認すると、落ち着いて取り組むことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーランドのミシン掛けやアクリルたわし作り、くるみボタン作りの作業に落ち着いて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを切り替えて落ち着いて作業に取り組めるように、工程ごとに休憩する時間をとる。(工程や手順) (見通しやめあて) ・取り組む仕事ができるように日程表や写真を用意して提示する。(見通しやめあて) ・縫い終わりが分かるように、台紙のサイズを調整する。(教材や用具) ・アクリルたわし作りにすぐに取り組めるように、編み機に糸をセットしておく。(教材や用具) ・くるみボタンが作れるように、布を貼って補助具にセットしておく。(教材や用具) 	

(5) 評価

- ・一人一人がめあてを意識して担当する工程に取り組むことができたか。